

Asia Indicators

発表日:2023年5月10日(水)

オーストラリア:PMI(23年4月)

～サービス業PMIが大きく改善、今後は利上げによる拡大ペース鈍化に着目～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 阿原 健一郎(Tel:050-5470-4868)

4月のオーストラリア総合PMIは53.0と節目の50を上回った。前月は50を下回り景況感が悪化したものの、4月は53.0(3月48.5)と1年ぶりの拡大ペースで改善した。各項目をみると、製造業PMIが48.0(3月49.1)と引き続き50を下回って推移した一方で、サービス業PMIが53.7と3月の48.6から大きく改善しており、サービス業が総合PMIを底上げした姿となっている(図表1)。

製造業PMIについて構成項目を確認すると、新規受注指数が大きく低下するも、生産指数、原材料在庫指数も引き続き50を下回って推移している。また、財需要の減少に加え、供給制約の解消によってサプライチェーンが正常化しており、サプライヤー納期指数が50を上回って改善傾向にあることも、ヘッドラインを押し下げる要因となっている(図表2)。オーストラリアの製造業は、国内の財需要の減少に加え、世界経済の減速が懸念されるも、グローバルな製造業の景況感の悪化を受けて、2か月続けて悪化する形となった。

サービス業PMIについて各項目を確認すると、雇用指数、価格指数が引き続き50を上回り推移していることに加え、新規受注指数も50を上回る水準まで改善している(図表3)。オーストラリアのサービス業は、需要の一部が財からサービスにシフトしており、国内の需要増加から景況感は改善しているといえる。サービス業PMIの推移を見ると、3月単月では更なる金融引き締め懸念から節目の50を下回ったものの、四半期で均してみれば景況感底を打っており、拡大に転じている。また、投入価格指数は拡大ペースが鈍化しているものの、雇用指数と共に節目の50を上回って推移しており、労働市場が逼迫している状況が見て取れる。

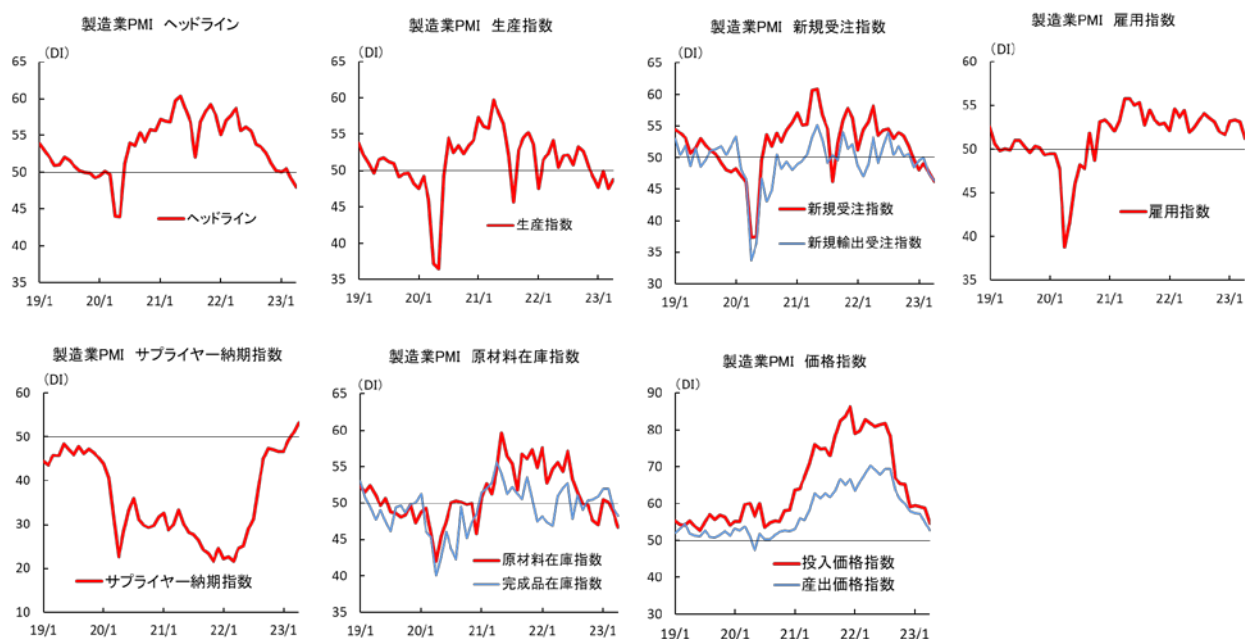
先行きは、製造業では、新規受注が悪化していることから縮小傾向が続くと予想される。サービス業は、足もと拡大傾向にあるが、5月2日にRBAが市場予想に反して利上げを実施しており(+25bps、3.60%→3.85%)、家計の圧迫による需要の下押しを通じて、拡大ペースは幾分鈍化していくと予想される。

【図表1】オーストラリアのPMI

	四半期				月次			
	22/3Q	22/4Q	23/1Q	23/2Q	23/1月	23/2月	23/3月	23/4月
総合PMI	50.7	48.4	49.2	53.0	48.5	50.6	48.5	53.0
製造業PMI	54.3	51.4	49.9	48.0	50.0	50.5	49.1	48.0
サービス業PMI	50.6	48.1	49.3	53.7	48.6	50.7	48.6	53.7

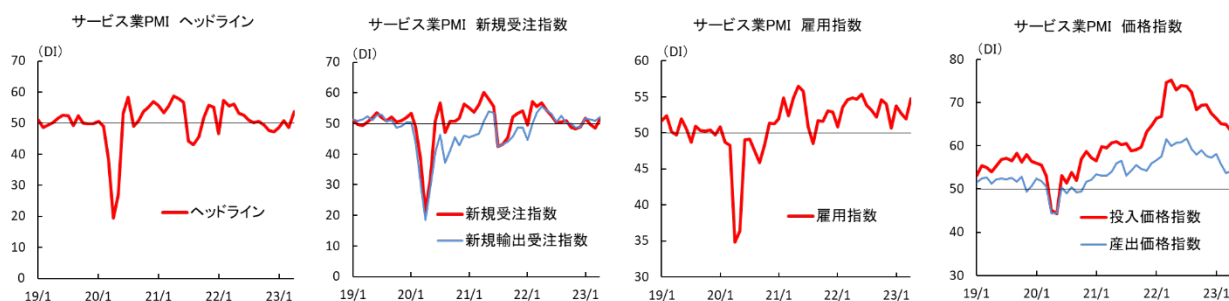
(出所) S&P Global

【図表2】製造業PMI



(注)直近はいずれも4月。
(出所) S&P Global

【図表3】サービス業PMI



(注)直近はいずれも4月。
(出所) S&P Global

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。